

# 北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 2

令和元年 10 月 31 日 (木)

## 全道代表者研修会、全道大会釧路大会 終了

令和元年 10 月 10 日 (木) に全道代表者研修会が、11 日 (金) に全道大会釧路大会が開催されました。両日ともに全道各地から多数の方々が参会され、大盛況に終わりました。

### 《全道代表者研修会》

☆10 月 10 日 (木) 17:00~

アクア・パールにて

釧路支部をはじめとする 11 支部より 19 名が出席され、役員、事務局員 27 名を合わせて 46 名の参加となりました。体研連 中野 正毅委員長の挨拶で会が始まり、続いて全道大会釧路大会 新谷 修実行委員長の話がありました。10 年前の釧路大会から継続研究している 9 カリ等についてお話しされました。



体研連 中野 正毅委員長



全道大会釧路大会 新谷 修実行委員長

各支部、事務局の自己紹介の後は、体研連 大牧 眞一事務局長より 4 月からこれまでの活動経過報告がなされ、更には全国大会埼玉大会で表彰される先生方の紹介がありました。今年度は、最優秀校 1 校と優良校 5 校、学校体育功労者 5 名が全国大会で表彰されます。誠にありがとうございます。また、12

月に開催される全道研究担当者研修会を、昨年と同様に国研指定事業の研究授業と兼ねて執り行うことも報告されました。

その他、研究部より翌日に控えた全道大会釧路大会の研究の概要や授業づくりについて、総務部より全道研究担当者研修会の案内と参加申込みの方法、全道研究担当者研修会での各支部の発表内容について、広報部より機関紙制作に関するご協力のお礼や連盟HPについて、会計部より会費の納入についての連絡がありました。

支部の活動状況報告では、各支部の研究主題や研究に対する基本的な考え方、4 月から半年間の取組や今後の研究授業、研修会の日程等の報告がなされました。各支部 3 分程度の短い時間ではありましたが、それぞれの様子を伺うことができました。

来年度の全道大会は、北見で 11 月の開催となります。オホーツク支部 緒方 隆人支部会長の来年度に向けてのお話の後、体研連 和田 正教副委員長の



次期開催全道大会オホーツク大会 緒方 隆人支部会長 全道代表者研修会の全体の様子

挨拶で閉会となりました。

## 《全道大会釧路大会》

☆10月11日（金）

<午前>

器械運動授業・・・①釧路市立桜が丘小学校 『器械器具を使った運動遊び（1年）』 小林 啓聡先生  
②白糠町立白糠中学校 『跳び箱運動（1年）』 白糠小教諭 久保 達哉先生  
ボール運動授業・・・①釧路市立鳥取西中学校 『バスケットボール（3年）』 佐藤 雄飛先生  
②釧路町立遠矢小学校 『バスケットボール（5年）』 山本 健太先生

小学校2会場、中学校2会場で授業が公開されましたが、今大会は「器械運動系」と「ボール運動系」の授業を通して小・中学校のつながりをみました。大会主題にあるように、運動に向き合い、夢中になって活動する子どもたちの姿が見られました。



桜が丘小学校



白糠中学校



鳥取西中学校



遠矢小学校

<午後>

釧路市生涯学習センター：開会式・全体会、分科会、講演会、閉会式

釧路市生涯学習センターにて開会式・全体会が行われ、その後、器械運動系とボール運動系に分かれて分科会が行われました。両分科会とも、それぞれ公開された2つの授業について活発な意見交流がなされました。9年間のつながりという点で、発達段階に応じた指導等についてたくさんの意見が出されていました。

桐蔭横浜大学教授 松本 格之祐氏による講演会は、「体育の授業で大切にしたいこと」と演目で、ボールや場、ルール等の重要性や授業や単元の最後の姿から学習計画を作成していくことなどを教えていただきました。

閉会式では、連盟旗が釧路大会 新谷 修実行委員長からオホーツク支部 緒方 隆人支部会長に引き継がれ、全道大会釧路大会が閉幕となりました。



開会式・全体会



器械運動系分科会



ボール運動系分科会



講演会



閉会式・連盟旗引継ぎ

- ・全道大会釧路大会の詳細は、2月発行の機関紙116号に記載されます。そちらをご覧ください。また、2日間の様子は、連盟HPでも閲覧できます。
- ・本連盟HPの各支部の活動ページから、渡島支部やオホーツク支部のHPを開くことができます。ご活用ください。また、HPを開設されている支部でリンクを希望される場合は、広報部三浦までご連絡ください。

### 《お詫び》

9月17日に発行いたしました機関紙「体育研究」115号の5ページの大会研究主題が「渡島大会」となっておりました。正しくは「釧路大会」の誤りです。大変失礼をいたしました。心

よりお詫び申し上げます。

(文責：広報部 三浦 祐大)